

大学の見解を調査した結果報告（その1部）

Fax 送信日 平成27年11月16日

回答締切日 11月25日

大学と短大に対する質問

「今後、理科基礎学力が重要になると思うか？」

回答数	合計652件	
有効回答数	大学全学としての回答数	405大学
	学部（学科）としての回答数	70大学（経済学部、医学部等）
	短大全学としての回答数	94短大

平成27年12月7日

日本理科検定協会

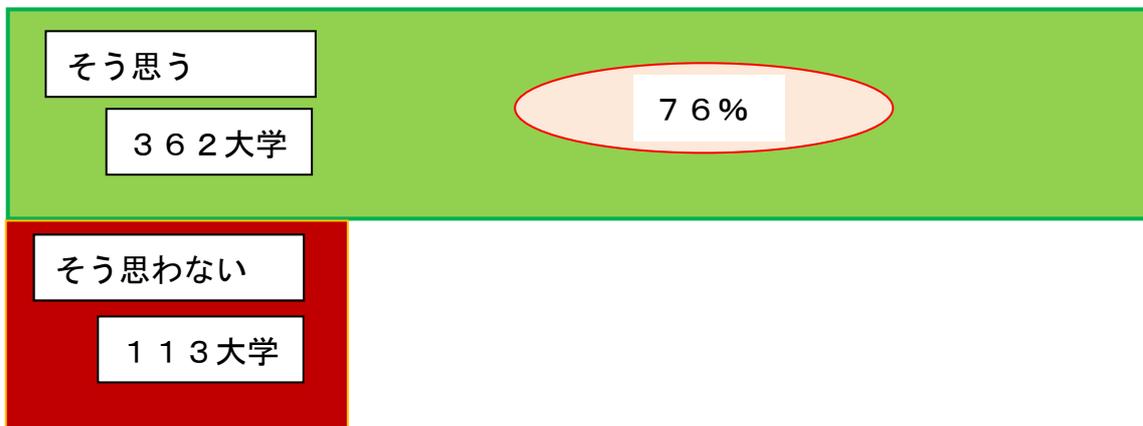
協力：理数検定研究所

「理科検定」に関する推薦・AO等 受け入れ条件に関する調査
に伴い、大学の入試対策課（室）を窓口として Fax を利用し以下の見解を伺ってみた。

◆ 1 「今後、理科基礎学力が重要になると思うか」の問いかけに対し次のような回答があった。

- | | | |
|---------|---------------|------------------|
| 1 回答数 | 合計 652 件 | |
| 2 有効回答数 | 大学全学としての回答数 | 405 大学 |
| | 学部（学科）としての回答数 | 70 大学（経済学部、医学部等） |
| | 短大全学としての回答数 | 94 短大 |

大学の見解 今後、理科基礎学力が重要になると思うか？



短大の見解 今後、理科基礎学力が重要になると思うか？



解説：株取引や為替取引の優位性が0.0002秒の差によって確定され、ロボットの善し悪しが人命を左右する時代に理科の基礎知識が必要になることは言うまでもない。家族の健康を維持するために安全な食材を調達したり、ハウスダストを低減するなど、生きる力の源となる基礎・基本の知層を理数的感性によって築くことは、今世紀半ばまでのわが国の見えざる課題である。

知の財産は個人の学習意欲によっていかようにも増やすことができる。若者たちの誇りになるような大人社会のベクトルを見定め、子供たちを重ね過ぎず、適切な学びの場を提供することが学校や大学に求められている。

◆ 2 今回の調査で明らかになったこと

1	理科検定「理検」を既に活用している大学	68大学（国立大学を含む）
	同 学部	2大学
	同 短大	10大学
2	活用の3事例	
	事例1 学生募集による入試優遇	68大学 10短大
	事例2 教育学部での理科基礎学力保障	4大学（4学部）
	事例3 英語、数学、理科の基礎学力保障	8大学 1短大
3	その他	
	高大連携の課題として理科検定を検討中	5大学

解説1：理科検定は「理検 SCORE100」に代表されるようにネットを介して CBT で受検可能となっている。CBT で受検したものは PC による IT 基礎技術も身につけていると見做せるので学習意欲が相応に高いと評価される。

専門学校だけではなく大学にもそのような人材の養成と発掘に注力することが望まれている。

解説2：学生募集の方法や学部教授の指導ノウハウは各大学や学部の戦略に係るために公開できないと
するご意見を多数いただいた。

それにしても、理科検定を既に68もの大学が活用しているとの結果は驚きである。理科に関する基礎学力が例えば、地球温暖化による経済への影響や豪雨や落雷による生活破壊の問題解決に直結する時代であることを各教育機関が意識して、学生指導を再構築すべき局面にあることを物語っている。

解説3：12, 3年前に忘れられた科学「数学」という報告書が文部科学省から出されたことがあった。わが国の数学教育が低迷していた時代にインドや中国が急激に台頭し、Web を活動基盤とした世界経済の流れが大きく変わった。技術開発のさらなる進展が当面の雇用を奪うことは自明であるが、国民レベルの理・数に関する知の財産を蓄積しておくことが次の時代を穏やかにする重要な教育命題である。

記：高田大進吉